



令和2年9月1日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第14号

2030年に必要とされるスキル（能力）とは

～「戦略的学習力」「メタ認知」「振り返り」～

第2学期 始業式 学校長式辞

みなさん、おはようございます。新型コロナウイルスによる一斉休校が長かったため、今年は12日間の短い夏休みでした。すでに授業は8月20日から授業が始まっていますが、正式には今日9月1日から2学期になります。

さて、1学期は小中合同運動会やキャリア・スタート・ウィークなどが中止となり、また、呉市中学校ソフトテニス選手権大会も雨のため、男子の試合ができなかったのは本当に残念でした。しかし、2学期が一番長い学期ですので、自分を成長させるために計画を立て、目標に向かって邁進してください。そのために役に立つ少し難しい話をします。

これからの社会は、AI（人工知能）や5G（第5世代移動通信システム）によって劇的に変わることは間違いありません。2016年から2017年にかけて、AIが囲碁や将棋のトップ棋士、ポーカーの世界トップクラスのプレイヤーに勝ってニュースにもなりました。その後も進歩はめざましいですが、今後AIと5Gが本格的に稼働するようになると、進歩のスピードはもっと早くなります。その結果、今ある職業や技術が必要とされなくなる日もそう遠くありません。

10年後、つまり現在中学生の皆さんが社会人になる2030年頃に必要とされる知識や能力、スキルとは、どのようなものだと思いますか。世界有数の大学であるイギリスのオックスフォード大学が、「2030年に必要とされるスキル（能力）」という論文を発表し、ランキングしています。

2030年に必要とされるスキル（能力）

オックスフォード大学

必要とされるスキル	
1位	戦略的学習力
2位	心理学
3位	指導力
4位	社会的洞察力
5位	社会学・人類学
6位	教育学
7位	協調性
8位	独創性
9位	発想の豊かさ
10位	アクティブラーニング

必要とされないスキル	
1位	操作の正確さ
2位	手作業のすばやさ
3位	レート制御
4位	手作業の器用さ
5位	指先の器用さ
6位	（機材やシステムの）捜査力
7位	応答のすばやさ
8位	手作業のぶれなさ
9位	機材管理力
10位	反応の正確さ

見て分かることは、具体的な職業をイメージできるようなスキルは少ないことです。この論文で述べられている 2030 年に必要とされるスキルとは、人と人との関わりの部分、つまり「人間の感情」や「創造性」、「教育」だと言われています。AI（人工知能）やIT技術は、人間の心や感情まではカバーできないと考えられます。

必要とされるスキルの1位の「戦略的学習力」とはどのようなスキルだと思いますか。

これは、新しい知識や技能を身に付ける力のことで、がむしゃらに新しいことを学ぶのではなく「学び方を学ぶ」というスキルです。少なくとも、詰め込み学習はこれから通用しないと言われています。そして、「戦略的学習力」を身に付けるには「メタ認知」が大切だと言われています。メタとは「上の」という意味で、メタ認知とは「上の視点から見た認知」ということです。「もう一人の自分が、自分を客観的に見ている」、言い換えれば、幽体離脱して自分を眺めている状態です。自分を客観的に見ることができれば、「自分は何を知らないかに気付く」ことができます。これまでの研究で、「メタ認知ができる人は、学習効率が高く、新しい知識や技能を身に付けるのが速い」ことが分かっています。

この「メタ認知」は、授業では毎時間行っています。それは、授業後の「振り返り」です。

そこでは、「楽しかった」「難しかった」という感想を書くのではなく、「何をどのように理解できたのか」「友達の発言を聞いて、こんなことに気が付き、理解できた」など、自分自身を客観的に書いてください。この「振り返り」で「メタ認知」し、その積み重ねが「戦略的学習力」を身に付けることとなります。

また、「必要でなくなるスキル」について誤解してはいけないことがあります。例えば「指先の器用さ」などが必要とされないと予測されていますが、全く必要とされないのではなく、ものづくりなどの職人や美容師などは必要ですし、AIでは無理です。AIやロボットなどが進歩しても、すべてがとってかわるわけではありません。

これから、「学び続けることが大事」ということです。皆さんもこの2学期は自分自身を客観的に振り返りながら、学び続けてください。期待しています。

令和2年9月1日

蒲刈中学校長 柿林 浩彦

熱中症対策も万全に ～WBGTを目安にしています～

熱中症予防として、毎朝「環境省熱中症予防情報サイト」で蒲刈町の暑さ指数(WBGT)を確認し、職員室前の掲示板に熱中症危険度を表示することで、生徒と教職員に注意を呼びかけています。

WBGT(湿球黒球温度:Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。気温、湿度、輻射熱の3要素を組み合わせ、人が暑さの中で行動する場合に熱中症にかかる危険度の高さを示した温度指標で、「暑さ指数」とも呼ばれています。

暑さ指数(WBGT)が25℃を超えると運動や作業を行うことで熱中症にかかる危険は高まる警戒レベルで、31℃を超えると体育の授業や部活動は中止となります。(WBGTが31℃を超えなくても、本校では総合的に判断し、中止としている場合も多くなります。)

学校では、毎朝、保健委員が健康観察を行い、生活委員は教室の環境チェック(温度・湿度・換気など)を行っています。また、グラウンドには「熱中症暑さ指数計」を設置し、当日、安全に部活動が実施できるかを実測しています。今後も徐々に暑さに慣れさせていくために運動メニューを考慮したり、テントの設置、保冷剤や水分、うちわなどの救急用具の準備、こまめな水分補給の時間を確保したりするなど対応します。ご家庭でも毎日の健康観察をお願いいたします。



暑さ指数(WBGT)をチェックして 熱中症を予防しよう!					
気温(平均)	24℃	24-28℃	28-31℃	31-35℃	35℃以上
暑さ指数(WBGT)	21℃未満	21-25℃	25-28℃	28-31℃	31℃以上
危険度	ほぼ安全	注意	警戒	嚴重警戒	危険
注意事項	運動や作業を中止 しましょう	積極的に水分を補給 しましょう	積極的に水分を 取りましょう	新しい運動は中止 しましょう	運動は中止 しましょう